



創立70周年「つづく つながる 夢を育てる学び舎」

国立二小だより

令和2年(2020年)12月24日  
国立市立国立第二小学校  
校長 小林 理人

## 未来につながる価値のある取組

校長 小林 理人

先日、日本漢字検定協会が実施している今年の世相を表す漢字が発表され、コロナ禍を反映して「密」が選ばれました。そして、「密を避けることで人と関わる機会が失われ、改めて人と関わりたいと願う気持ちが高まったこと」が理由の一つとして挙げられていました。様々な活動ができないことを憂うだけではなく「密」の良さや必要性を選定の理由の一つとしていることに共感を覚えました。

12月は、学校再開からこれまでの間、身に付けたり学んだりしたことを活かして、「密」を避けた関わりを工夫し、絆を深めた活動がたくさんありました。

### にしょうのあしたにたねをまこうプロジェクト

これまでお世話になった人たちや慣れ親しんだ校舎や校庭などへの感謝と、新しくなる校舎や新しく始まることへの希望をテーマした「にしょうのあしたにたねをまこうプロジェクト」の全校集会が12月1日の開校記念日に行われました。

子供たちは、テーマである「感謝」と「希望」についての自分の思いをメッセージカードに書き、中央階段の掲示板に貼りました。

掲示板は、写真にあるように、未来に向けての希望や、たくさん遊んだ芝生、思い出いっぱいの校舎、お世話になった先生や友達への感謝の言葉で埋め尽くされました。

そして、開校記念集会では、その思いを5年生が中心となって進めたパブリカの替え歌や全校ダンスや、6年生の二松ソーランで表現しました。「密」をつくらず絆を深める工夫が様々ありました。



### 未来につながる思い出づくり「日光移動教室」

12月16日(水)、2泊3日の日光移動教室から6年生が帰校しました。体育館で行われた帰校式では、代表となった3人の児童が日光で学んだことや思い出に残ったことを報告しました。

それぞれの思いを伝える報告は達成感や満足感にあふれていました。そして、結びに

「連れて行ってくれた先生方や現地の皆さんに感謝します。日光でみんなと仲よく過ごした経験を活かして中学に行ってもたくさん新しい友達をつくりましょう。」と3日間の生活を支えてくださった方々への感謝に加え、未来に向けての決意の言葉でしめくくりました。

今年は、様々な行事や取組が中止になったり、やり方を見直したりすることが続き、これまで当たり前に行われていたことの意味や価値、有難さを改めて感じた一年でした。日光移動教室も例外ではありません。子供たちの工夫や努力はもちろんのこと、保護者の皆様を始めとする多くの方々の支えにより、春の移動教室では味わうことができない自然の美しさを6年生全員で体感しました。さらに、3日間の共同生活では、「4つのない」を意識しながら、友達と共に過ごす楽しさを味わったり、協力することの意味をあらためて考えたりすることができたようです。



96日間の長い2学期が終わりました。保護者、地域の皆様のご理解ご協力と、学校生活を支えてくださっている医療関係者を始めとした多くの方々のお力により、忘れられない思い出づくりと未来につながる価値のある取組がたくさんできました。

みなさまに心から感謝申し上げます。